地域と医療で咲くコミュニケーション

あまが咲だより

2016
2月
No.21

兵庫県立尼崎総合医療センター

[部門紹介]

医療安全部
「医療安全部とは？」

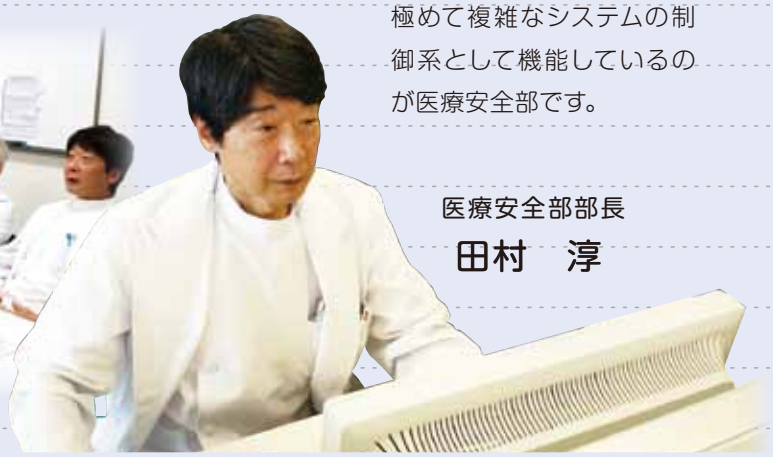
[診療科紹介] 神経内科／形成外科

●兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会　阪神南ブロック理事からの“ひとこと”
●セミナーのご案内　●スタッフのつぶやき　●ぶらり～っと病院探訪

部門紹介
医療安全部

医療安全部とは？

患者さんが病院で安全な医療サービスを享受できるように、医療安全部は活動しています。患者さんへの診療に関することだけでなく、病院の設備や情報管理など病院全体のハード・ソフト両面にわたって問題が生じていないか常に情報収集を行い、対策を検討し実施しています。病院という極めて複雑なシステムの制御系として機能しているのが医療安全部です。



医療安全部部長
田村　淳

◉Ⅰ医療安全部の構成

医療安全部は診療部2名（副院長・医療安全部長）、看護部2名（医療安全課長・専従看護師）、事務1名（業務支援課課長）、秘書1名の計6名のスタッフで構成されています。
また病院の各部門から選出された74名のリスクマネージャーが現場での安全管理の責任者として活動しており、さらにそのうちの13名のコアメンバーがタスクフォースに任命されています。

◉Ⅱ医療安全部の活動内容

＊ヒヤリ・ハット報告のデータ解析・対策の立案

日々電子システムでアップされるヒヤリハット報告の内容を確認し、現場でヒアリングを行い、原因分析し再発防止に向けた助言や指導等を行っています。しかし重要案件については、関係者を集めた事故対策部会で検討し、さらに幹部役員で構成された事故防止対策委員会で討議して対策立案を行っています。

＊リスクマネジメントに関するサーベイランスと情報共有

医療事故防止対策委員会（月1回）・リスクマネジメント部会（月1回）・タスクフォース会議（週1回）・事故防止対策部会（随時）などを開催し現場での安全管理上の問題点の収集や事例の検討を行っています。

＊啓蒙活動

年に2回、医療安全講演会を開催し職員のリスク管理に対する意識の向上を図っています。

＊説明書・同意書の作成と管理および医療機器の整備と管理

説明書・同意書部会と医療機器安全管理部会は下部組織であり、前者は患者さんへの説明・同意書の作成・管理を、後者は病院で使用する医療機器全般の整備・管理を統括しています。

複雑で高度な医療を実践しようとするほど、内在するリスクは高くなり、更に医療安全に対する社会的な要求も年々高まってきています。病院のあらゆる現場における不断のサーベイランスと遅滞のない対策の立案・実施、そして職員のリスク意識を高めることによって医療安全部の使命を果たしていきたいと考えています。

神経内科

守備範囲は、脳・脊髄から末梢神経・筋肉までの病気です。

兵庫県立尼崎病院で神経内科が開設されて以来、40年がたちました。脳卒中と神経難病を中心に、脳神経外科や精神科、放射線科、リハビリテーション科など多くの診療科の協力のもと、脳・脊髄・末梢神経・筋肉などの神経組織における内科疾患の診断・治療を行っています。

神経内科科長
兵庫県難病相談センター長

影山 恭史

日本神経学会代議員・専門医・指導医
日本脳卒中学会専門医
日本リハビリテーション医学会認定臨床医
日本認知症学会専門医
日本内科学会認定内科医

形成外科

からだの機能と外見、両方とも大事

形成外科とは、生まれつきの、または、けがや癌などで変形したり失われたりした体の表面や骨（主に顔の骨）の異常の向上に貢献することを専門にする外科系診療科です。からだの機能と外見は車の両輪と一緒です。両方を良い状態

対象とする疾患

当院形成外科では、形成外科全般にわたる診療を行なっていますが、特色ある治療として、下記が挙げられます。

唇顎口蓋裂

出生時から成人に至るまで、系統立てた治療を行っています。この疾患を専門とする矯正歯科医および言語聴覚士と連携した専門治療を受けていただくことが可能です。詳しくは当院形成外科ホームページをご覧ください。

皮膚がん

とくに顔面の皮膚がんは充分切除することだけでなく、術後に変形を残さないことが大事です。形成外科におまかせください。

顔面骨折

目の周りや頬、鼻、あご、など顔面の骨折を扱っています。手術の傷跡がほとんど分からなくなるように切開を入れる部位や縫い方を工夫しています。

眼瞼下垂・睫毛内反

瞼が垂れ下がってうっとうしい、まつ毛が眼にあたって痛い、など、まぶたの症状を改善させる手術を得意としています。もちろん、傷あとがめだつことはありません。

乳房再建

保険診療で人工材料（シリコン・インプラント）を使った乳房再建ができるようになっています。乳がん術後の乳房形態に悩んでおられる方、これから乳がんの手術をお受けになる方、ご相談ください。

神経内科のご紹介

検査では、CTや3台あるMRI、脳血流SPECTやDAT scanなどの核医学検査、脳波計（1台は病棟に設置）、筋電計を駆使し、診断にあたります。高次脳機能評価は、言語聴覚療法士と協力して行います。入院患者さんを対象に病棟に設置したデイサービスルーム「ときの間」は、多くの診療科からの利用があり、好評を得ています。

後列左から：太田医師、山田医師、足立医師、米田医師
中列左から：長谷川医師、石原医師
前列左から：影山医師、市川医師、松本医師

対象とする疾患

①急性期脳卒中

- 脳神経外科との協力にて、脳卒中当直を担当し、6床の脳卒中ケアユニット（SCU）を中心に脳梗塞などの急性期治療を実施。
- 急性期以降は、必要に応じて回復期病院へ転院し、リハビリを継続。

②神経難病

- パーキンソン病を中心とする神経難病の診断や治療方針の決定。
- 併設の兵庫県難病相談センターと連携し、医療相談、在宅療養や転院の支援・調整。

③けいれん・てんかん

- 救急当直で多い、けいれんやてんかん発作の患者さんへの対応。

④物忘れ

- 外来で、物忘れの原因を精査。もの忘れ看護相談を併設し、地域診療所や地域包括支援センターと連携。

です！

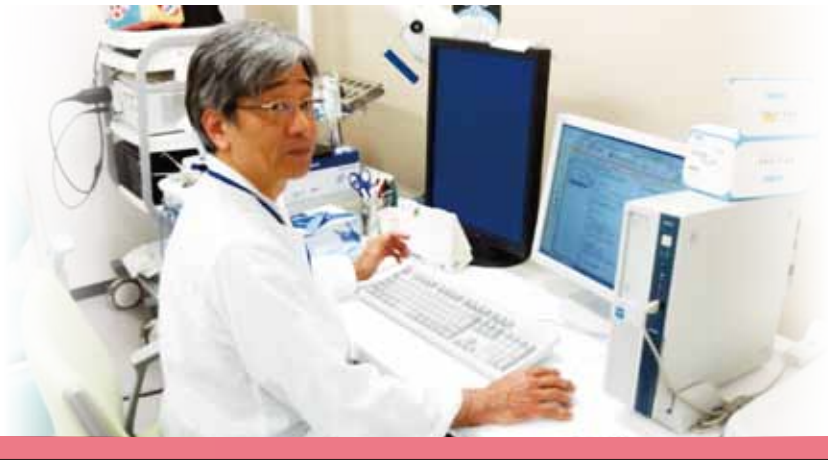
を、機能回復のみならず形も正常に近い状態に再建し、QOL（quality of life）にして早期の社会復帰をめざします。

左から：山脇医師、堀尾医師、梅原医師、澤良木医師

形成外科科長

山脇 吉朗

京都大学 医学博士
京都大学 医学部 形成外科 非常勤講師・臨床教授
日本形成外科学会 専門医
日本形成外科学会 皮膚腫瘍外科 指導専門医
臨床研修指導医
日本形成外科学会「口唇・顎・口蓋裂・その他の顔面先天異常 治療ガイドライン」作成委員



県立尼崎総合医療センターへ

ひとこと

兵庫県立尼崎総合医療センターに期待を寄せて

兵庫県訪問看護ステーション連絡協議会　阪神南ブロック理事
並河 直子さん

新病院の開院まことにおめでとうございます。

ＥＲ型救命救急センター、総合周産期母子センター、循環器センター、がんセンター等高度専門医療を担う大規模な病院が尼崎の中心に出来た事で、阪神南圏域の訪問看護ステーションにとっては、大変心強く、また利用者さんに対し、充実した在宅看護の提供が出来ると期待しています。現在2025年問題を背景として、切れ目ない在宅医療・介護の提供体制の構築に向けて、各市での取り組みが始めっています。そこで医療・介護の両面に関わっている訪問看護ステーションとしては、「医療と介護の繋ぎ役」としての役割が大きいと感じています。特に当訪問看護ステーションの最近の傾向として、新規利用者は、がん患者が50%を占めており、終末期までがんの治療を受けた後に退院された患者がほとんどで、在宅での看取り期間は約2週間程度です。県立尼崎総合医療センターからの依頼も多くあります。がんの患者を含め、患者・家族がその人らしい最期のときを満足して迎えるために、高度急性期病院の看護と在宅の看護・介護に何をどのように繋げばいいか、一緒に検討していただけたらと思います。今後も、訪問看護ステーション連絡協議会にご指導ご協力をお願いいたしますとともに、謹んで兵庫県立尼崎総合医療センターのご発展を記念致します。

2つの当院企画セミナーのご案内

多くの方のご参加を！

第56回市民健康公開講座「市民すこやかセミナー」

【テーマ】● 認知症について
ー歳とれば気になる物忘れー

講 師：県立尼崎総合医療センター
▶神経内科　医師　影山 恭史
▶認知症看護認定看護師
金澤 直美

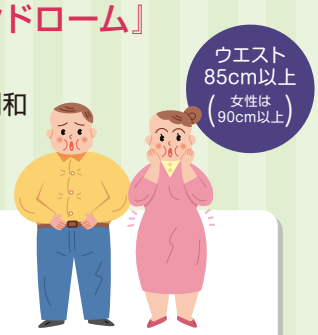
【日　時】平成28年
3月15日（火曜日）
午後2時～3時30分
【場　所】県立尼崎総合医療センター　講堂（1階）
参加費：無料（予約不要）

★お問い合わせ：地域医療連携センター
☎ 06-6480-7000（代表）

第3回 生活習慣病セミナー

【テーマ】●『あなたは大丈夫？ 防ごう！防げる！
メタボリックシンドローム』

講 師：県立尼崎総合医療センター
▶糖尿病内分泌内科　北野 則和
▶管理栄養士　村上 綾香
▶理学療法士　細川 泰徳



【日　時】平成28年
3月23日（水曜日）
午後2時～4時
【場　所】県立尼崎総合医療センター　講堂（1階）
参加費：無料（予約不要）

★お問い合わせ：外来Bブロック（糖尿病・内分泌内科）看護師
☎ 06-6480-7000（代表）

スタッフのつぶやき

院長秘書って…!?

院長室横のカウンターが私の指定席

院長秘書　寒川美紀子

こんにちは！

「院長秘書」と言っても、なにも特別難しい事をしている訳ではありませんが、毎日バタバタしています。主だった業務は、お忙しい院長先生の事務的なお手伝いと「スケジュール管理」、そして、それに伴う外部や内部の方々との連絡調整などです。

院長室横のカウンターが私の定位置で、医師や看護師さん、事務職の方々などが緊張した面持ちで院長先生を訪ねて来られます。その緊張を和らげて取り次ぐのも私の仕事でしょうか。

たまに（開院時はちょくちょく）迷い込んで来られる方の道案内もしています。管理棟は複雑ですから（笑）。

病院勤務ですが、医療に関してはまったくの『ど素人』です。なので、逆に「患者さん目線で病院を観察できているのではないかなぁ」と思っています。実際に、尼崎病院・塚口病院時代には2度の出産・2度の手術と、大変お世話になりました。 これからも私にできる恩返しのつもりで日々頑張りたいと思います（∩∩）

ぶらり～っと病院探訪

安心・安全な検査／入院生活の提供を目指して

外来 検査・入院説明センター

今回は、外来フロアー2階と3階の日帰り手術センターに設置されている**検査・入院説明センター**を訪れてみました。

ここでは、「検査・手術・入院」の申し込みがあった患者さんを対象に、看護師が、検査の再度説明、食事や薬についての注意点や手術に必要な物品の説明、さらにアレルギーの有無や緊急連絡先、入院時のご要望などを伺っているそうです。

また、事務職員が入院時に必要な書類や入院生活のご案内を、薬剤師が検査や手術の際中止するお薬の説明を、管理栄養士が食物アレルギーの詳細を伺い、安心・安全な入院生活を目指してチームで取り組んでいます。

個室でプライバシーを守り説明をさせていただいているので、患者さんの中には、医師に言えなかった相談や不安をお話しされる方もおられるようです。

入院前から退院後の生活を見据えて、医療ソーシャルワーカーや医療事務、看護補助者、看護師が患者さんとともに考え安心して治療にのぞんでいただけるように日々努めているとのことでした。

「美人で気立てのよいスタッフ（？）が、お待ちしています‼」と最後に言っておられました。

編集後記

大寒を過ぎ、一年で最も寒い時期を迎えました。特に、先日は沖縄本島で初めて雪を観測するなど、記録的な寒さとなりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？

ホームページの院長年頭挨拶（http://agmc.hyogo.jp/aboutus/greeting/voice）にもありましたが、開院から半年以上が経ち、いよいよ当院が人材・医療機器・設備など持てる能力の全てを発揮する時期になりました。これまで以上に、私たち職員一人一人の真価が問われ、身の引き締まる思いですが（何故か、お腹はなかなか引き締まりません…）、「心は常に患者さんとともにありたい」と思う今日この頃です。（N.H.）

兵庫県立尼崎総合医療センター
Hyogo Prefectural Amagasaki General Medical Center (Hyogo AGMC)
〒660-8550 兵庫県尼崎市東難波町二丁目17番77号　TEL 06-6480-7000（病院代表）　FAX 06-6480-7001
URL：http://agmc.hyogo.jp/
兵庫県立尼崎総合医療センター　検索

発行　兵庫県立尼崎総合医療センター　企画協力・デザイン・印刷　兵田印刷工芸株式会社